

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	福浦 一男
職 位	研究員
研究概要	
<p>本年度は、東南アジアのタイ王国の北部地方における伝統宗教の動向、および地域社会の政治経済意識に関する調査研究を実施した。第一に、学会発表や論文を通して、20 世紀末以来、さまざまな政治的・経済的変動を経験してきた北タイ地域社会の伝統宗教である精霊崇拝と霊媒術の再活性化とその意義を解明した。このテーマは、10 年来行ってきた一連の調査研究の延長線上にあり、今後ともさらに議論を深めてゆく所存である。第二に、「京都エラスムス計画」の国際研究機関派遣により、チェンマイ大学の客員研究員として、2 ヶ月間現地での調査研究に従事した。この調査研究の所産の一部については、11 月の学会においてその概要を発表したが、その概略は以下の通りである。一般に、2006 年のクーデター以来、タイの政治情勢は、一人一票の民主主義の遵守を訴えタクシン元首相派を支持する地方域の人びとと、旧来の保守派エリートの対立であると言われている。しかし地方域の人びとは、社会状況と関係を取り結ぶ際に様々な同一化・差異化を実践している。チェンマイの人びとの多くは、メディアを通して首都の政治情勢をリアルタイムで把握しつつ、村落域の開発発展を重視する現在のタイ貢献党政権を支持している。だが、直接行動からは距離を置き、具体的な経済政策を注視する者もいるなど、社会状況への人びとの関与の度合いはさまざまであり、政治的・経済的な観点から、彼らは微細な自己同一化・差異化を行いつつ日常生活を維持している。このようなチェンマイ郊外の地域住民の政治経済意識の諸相、さらにタイ社会全般におけるそのコンテクスト、彼らの社会生活上の問題意識やストラテジー等のテーマに関して、論文を執筆中である。</p>	
業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）	
2013	「公共性・親密性の変容と伝統的な力——北タイ、チェンマイの霊媒術を手がかりに」『交錯する親密性と公共性——東南アジアの社会組織にみるアイデンティティ・生存』京都大学学術出版会（印刷中）。
2012.12	“Introductory Overview: Social Change and Politico Economic Consciousness of Local People in Chiang Mai, Northern Thai s land” (online article for The Kyoto Erasmus Program: A Program for the Overseas Development of Future Research Project Leadership on Sustainable Social Development in Asia, Kyoto University).

- 2012 “Adapting Popular Religion: The Séance Practices of Spirit Mediums and their Devotees in Chiang Mai, Northern Thailand”. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 13 (in printing).
- 2012.6 「集団儀礼の実践とアイデンティティの構築——北タイ、チェンマイの母系出自集団と霊媒集団の事例より」、第 46 回日本文化人類学会研究大会、於広島大学。
- 2012.11 「北タイ、チェンマイの社会変動と地域社会の現在」、第 85 回日本社会学会大会、於札幌学院大学。